

<h3>今年度の指導の重点</h3> <p>学校教育目標 自ら学び、生き生きと表現する 心豊かな子どもを育てる</p> <p>めざす子ども像 ◇思いやりのある子 ◇進んで学び合う子 ◇思いを伝え合う子</p>	<h3>津山っ子の学びを高める “3つの提案” 6つの取組</h3> <p>□学習や生活のルールを全教職員で共有して児童生徒や保護者へ提示している 当初【 A 】 年度末【 A 】                  □授業の中で学習のめあてを持たせめあてについて振り返る場を設定している 当初【 B 】 年度末【 A 】                  □言語活動充実のために話し合う活動を大切にしている 当初【 C 】 年度末【 B 】                  □学習のねらいに応じてICT活用等による多様な学習を工夫している 当初【 C 】 年度末【 A 】                  □授業で学んだことが振り返ることができるよう家庭学習の仕方を提示している 当初【 C 】 年度末【 A 】                  □家庭地域と共に育てるためにHPや通信等で発信している 当初【 B 】 年度末【 B 】</p>
<p>※達成度 【S:目標を多きく上回った(100%超)】【A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)】【B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)】【C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)】【D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)】【E:目標を達成できなかった(30%未満)】</p>	

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)	
<p>【学力状況調査の結果】 全国(6年) ○国語A・算数A・国語Bの正答率は、県・全国平均をやや上回った。 ○算数Bの正答率は平均をやや下回ったが、経年で比較すると国語・算数とも向上が見られる。 ○国語B・算数Bでの無解答率が昨年より減っているが、県平均には至っていない。 ○正答数分布グラフを見ると、国語A・算数A・国語Bは平均分布とほぼ等しいが、算数Bでは上位層が少なく中位層低位層にかけて分布が多い。 ○課題の大きかった設問は次の通り。 《国語》主述関係の正しくない文を書き直す・紹介文を基におすすぬ文を書く工夫・話し合いでの発言の意図 《算数》直径2倍の円周・円周率を求め式・12÷0.8で求める問題文・示された条件の解釈・数量関係の記述 県(3～5年) ○3年の正答率は、国語・算数ともやや県平均を下回った。 ○5年の正答率は、国語が県と同程度、算数がやや下回った。経年比較では、国語・算数とも緩やかな向上が見られる。 ○4年の正答率は、国語・算数とも県平均を大きく下回った。経年比較でも、国語・算数とも昨年より下がっている。 ○課題の大きかった設問は次の通り。 《国語》3年作文・漢字・説明文 4年主述述語・ローマ字・調べたことの内容発表 5年漢字辞典の使い方・条件付き作文・文章の内容理解 《算数》3年繰り下がりのひき算・長さとかさ・図形 4年わり算の説明・道のり・数直線 5年倍とわり算の図・180度より大きい角・グラフの変化</p>	<p>【学習状況調査の結果】 ○「家庭での学習時間1時間以上」の割合は60%を超えているが、県平均を下回っている。 ○「家庭学習に取り組めている」割合は県平均と同程度であるが、「全く家庭学習をしない・予習復習やテスト勉強などの自主学習をしない」割合が県平均より高い。特に土日に全くしない～1時間までの割合の高さが顕著。家庭学習の習慣化には、まだ課題があると考えられる。 ○「平日にテレビゲームを2時間以上する」割合が約30%で県平均と同程度、「平日にテレビやビデオ・DVDを2時間以上見る」割合が約55%あり、県平均をやや上回っている。 ○「平日に携帯電話やスマートフォンを1時間以上使っている」割合は約25%ある。中でも「4時間以上」の割合は約9%あり、県平均を著しく上回っている。 ○「普段、1日30分以上読書をしている」割合は約45%あり、県平均を上回っている。 ○「算数の勉強は好きだ・よくわかる」割合は県平均より低く、算数に苦手意識を持っていると思われる。さらに、算数・理科ともに「説明する」学習への取り組みが肯定的な割合が低い。 ○「先生に自分のよいところを認めてもらっていないと感じている」割合が県平均よりやや高い。 ○「朝食を毎朝食べる」割合は県・全国平均をかなり上回っている。 ○「地域の行事に参加している」割合は県・全国平均を上回っている。 ○「近所の人にあいさつをしている」割合は90%を上回っており、県平均と同程度である。</p>

成果	課題
<p>○5・6年は国語・算数とも経年での伸びが見られた。 ○特に6年生は、今年度A問題内容の大きな変化もあった中、記述問題への対応力に進歩が見られた。 ○「わくわくタイム」による国語の文法・読解問題の継続・週末チャレンジによる記述問題へのチャレンジ・過去問題へのチャレンジ・国語の授業づくりの方向性共通理解などが成果を上げたと考えられる。 ○算数では、数直線や図を使った問題にも対応できるようになりつつある。算数の授業の中で、数直線や図などを使い数量関係をはっきりさせ、立式することを大切にしている成果と考えられる。</p>	<p>○特に4年を中心に、前学年までのふり返り・定着が不足している。問題データベース等利用し、短い時間に、家庭学習などに、取り組ませる課題の内容や機会工夫する必要がある。 ○低学年での積み上げは、今後も徹底的に実施していく必要がある。 ○国語、算数ともに記述型の問題はまだ苦手としている。キーワードを使ってまとめる・条件付きで作文するなどの活動を、授業の中にさらに取り入れていく必要がある。 ○子どもが考えを伝えたり、話し合ったりする機会を、まだまだ十分とはいえない。「主体的・対話的で深い学び」のための授業づくりを進めることが欠かせない。 ○家庭での暮らし方に課題が大きい。家庭学習の時間・ゲームやネットと関わる時間など、家庭との連携が重要。 ○「きまりを守る」ことができていない児童が多い実態の改善を図ることも重要。</p>

何を(改善すべきこと)	いつまでに(成果検証の期限)	どこまで(対象と達成目標の設定)	どのように(方策)	達成状況(12月末現在)	達成度	達成状況(年度末)	達成度	次年度への改善点・重点課題
国語の授業で自力解決・伝え合う・深める共通のスタイルをつくる	2学期中に	○1年から6年の各学年の物語・説明文の単元の配当時期を確認し、各自重点単元を決めて、授業づくりに取り組む。 ○教材を眺む楽しさを児童と共感する。	・外部講師に指導いただいたことを、校内研修の中で繰り返し共通理解を進める。 ・自分で決めた重要単元で授業づくりを工夫し、公開授業や指導教諭のTT授業等で確認・啓発する。岡山県型学習スタンダードの徹底を進める。国語ノートはマスノートにする方向で。 ・公開授業を各自実践する。ふり返りまで書かせることを大切に。 ・新出漢字・語彙等はモジュールで定着まで図り、国語は眺む力・書く力を養う。	・各担任が2学期物語文と説明文の内、重点単元を1つ決め、授業づくり研究を進めた。 ・3年生説明文の全体公開授業で共通に研修をした。	B	・めあてまとめふり返りを意識して授業づくりできた。 ・言語活動の充実が図れた。 ・書いてから自分の言葉で発表させることができた。	B	・全職員でベクトルを合わせ、授業づくり。 ・外部講師を招き、国語(物語)の授業づくりを学ぶ。 ・国語ノートをマスノートにし、文字数を意
低学年での積み上げを強化する。各学年の学習内容の習熟。	2学期中、および3学期に	○1～2年生の音読・作文・計算の徹底した定着。 ○4年生を中心に、各学年重要事項の定着。	・各学年の重要事項はふり返る学習を細かに繰り返す。 ・徹底的に音読・暗唱・計算練習などに取り組ませる。複数教員・異学年とのつながりも取り組みに活用する。 ・1年生から視座を示して考えを伝える授業づくり。 ・Bトレプリント・データベースを使って補充学習をする。書くことの方法を指導する。	・各学年、秋チェックの分析・考察をし、手立てを考えた。 ・Bトレプリント・データベース・低学年はげんぼプリントも使って補充学習を進めた。	B	・Bトレでの補充により、B問題の解法の指導ができた。 ・モジュールで漢字の定着に取り組めた。 ・音読計算も二作文が定着。	A	・Bトレプリントは引き継ぎ取り組む。 ・複数単元の内容のプリントに取り組む。 ・良い自主学習の内容や例を知らせる。 ・百マス等共通の計算習熟を行う。 ・漢字への取り組みを換討する。 ・取り組むことが困難な児童への手立て、補充など
家庭学習の定着宿題内容の工夫自主学習の推進	2学期中に	○1年から6年の各学年学年×10分+10分の家庭学習。 ○自主学習に進んで取り組む。	・うさかめカードによる学期2回の家庭学習とメディアチェック。 ・前単元・前学年までのふり返りの内容も含めた宿題内容の工夫。問題データベースの活用。 ・週末チャレンジなど、思考力表現力を養う内容も取り入れる。(学力向上担当) ・自主学習の好事例を全学年掲示できるコーナーを作り、啓発を図る。 ・家庭学習の効果や意義など保護者へ伝える機会を設定する。	・うさかめカード実施を重ねる度、家庭学習の定着が進んだ。 ・各学年の自主学習ノートを校内に掲示し意欲付けを進めた。 ・週末チャレンジプリントにより	A	・うさかめ実施によりTV時間を減らす児童が増えた。 ・掲示された自主学習を参考に進んで取り組む児童が増え、取り組む内容も広がった。 ・週末チャレンジで習熟が進み、課題も明確になった。	A	・生活改善のためうさかめカードのチェック内容改善。学習やメディア時間を記録。 ・掲示した自主学習などにコメントをつけ、より励みになるようにする。

※達成度 【S:目標を多きく上回った(100%超)】【A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)】【B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)】【C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)】【D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)】【E:目標を達成できなかった(30%未満)】

小中連携の取組	保護者・地域へ理解・協力を求めること
<p>○県・全国学力学習状況調査の分析を基に教科学力の向上を目指した授業改善の取り組み(系統だった指導方法) ○チャイムスタート・無言入場などを中心に、中学校区での共通の取り組みである、規律ある学校・授業づくりを目指す。 ○学習意欲の向上と理解の定着を図るために、学び合いを積極的に行き入れる。 ○小中間による授業公開並びに児童生徒の情報交換を行う。</p>	<p>○家庭学習のスタンダードを基に学級懇談や個人懇談などで呼びかけ、家庭における学ぶ環境づくりを進める。 ○ノーマディアの取り組みを家庭を巻き込んで行う。 ○うさかめカードの取り組みを活用して親子で触れ合う時間を設定する。</p>